

# 麻布未来写真館

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

平成 30 年度（2018 年度）活動報告

港区麻布地区総合支所

## はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会が、平成 30 年度に取り組んだ活動の記録です。

### 「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含まれた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様の地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

平成 31 年 3 月 港区麻布地区総合支所協働推進課

## 《 目 次 》

### はじめに

I	分科会活動の概要	01
	「麻布未来写真館」とは	01
	パネル展の開催等	02
II	分科会メンバー作成パネルの紹介	03
	パネルの作成	03
III	これまでの活動を振り返って	19
	メンバーのことば	19
IV	参考資料	23
	分科会活動記録（平成 30 年度）	23
	まち歩き（撮影）ルート図	24

### 区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成 31 年 3 月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の 3 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な活動を行っています。



## 「麻布未来写真館」とは

### 「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。

麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残るなど歴史と文化の「まち」でもあります。一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。

こうした大規模なまちづくりにより「まち」が変化していくなかで、貴重な歴史的・文化的資産を次世代へ伝えていくとともに、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

### 事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

### 区民との協働事業

平成30年度は、広報紙等の募集を通じて集まった「区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」のメンバーとともに、収集した資料等を活用したパネル作成に向けたワーキング、まち歩きによる「まち」の変化の撮影やこれまでに作成したパネル等の発信、事業の周知に向けた検討等を実施しました。分科会メンバーが作成したパネルは、大学や企業等の協力により、7会場で展示しました。

### 区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 メンバー

天羽 大器、荒澤 経子、入江 誠、岡崎 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、櫻井 綾、鈴木 順二、田岡 恵美、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子、吉川 一郎

50音順（平成31年3月1日現在）



## パネル展の開催等

### パネル展の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでも開催してきた「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から10年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方から、写真等のご提供など多大なご支援とご協力を賜り、今年度はパネル展を7会場で開催しました。

また、常設の展示として、都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所2階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行っています。

### パネル展スケジュール

- パネル展①：港区役所 1階 ロビー  
平成30年5月21日（月）～6月1日（金）
- パネル展②：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー  
平成30年6月18日（月）～7月13日（金）
- パネル展③：ありすの杜 南麻布 1階 ニュートゥモローカフェ  
平成30年9月10日（月）～9月21日（金）
- パネル展④：麻布図書館 5階 視聴覚室  
平成30年10月16日（火）～10月30日（火）
- パネル展⑤：フジフィルム スクエア ミニギャラリー  
平成31年2月15日（金）～2月28日（木）
- パネル展⑥：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー  
平成31年2月18日（月）～2月28日（木）
- パネル展⑦：ありすいきいきプラザ 1階 展示・読書コーナー  
平成31年3月19日（火）～3月29日（金）
- パネル展⑧：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階  
学院資料・村岡花子文庫展示コーナー 協  
平成31年3月19日（火）～※年度末以降も継続して展示



### ARを活用した情報発信

麻布地区版計画書（平成30年度～平成32年度）では、麻布未来写真館の活動成果であるパネル等について、ICT（情報通信技術）を活用した公開を行うことを計画しています。平成30年度は、まち歩き（撮影）の際に、「東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室」が開発したARアプリ「思い出のぞき窓」への画像登録を行いました。また、平成31年度以降もICTを活用したパネル等の公開を推進していくにあたって、平成31年3月のパネル展で、AR体験ブースの試行設置を行いました。

#### AR体験パネル－拡張現実感で追体験－

ARとは Augmented Reality の略で、日本語に訳せば「拡張現実感」となります。つまり、現実に対して、画像や情報を重ねて見せることで、現実以上に体験を拡張することを指します。

展示にARを使うことで、展示に関する情報を効果的に伝えることが可能になります。本展示では、展示パネルの写真にiPadをかざすことで、その写真が撮られた昔の風景や今のパノラマ風景に切り替わります。iPadを使って、麻布地区の今と昔を行ったり来たりすることで、まちの移り変わりを追体験することができます。

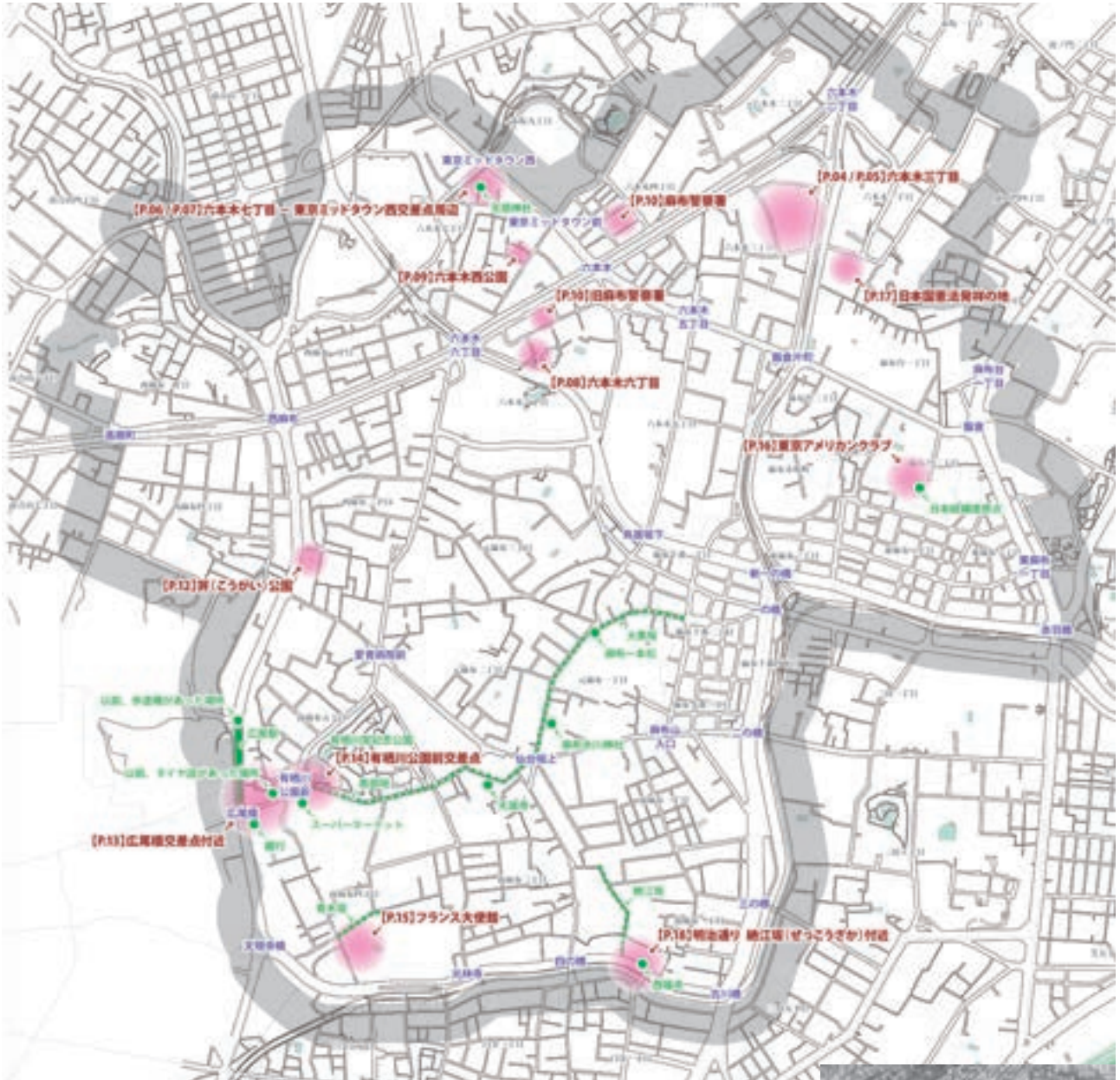


## II 分科会メンバー作成パネルの紹介

### パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や使用を活用しました。

なお、「分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



#### <写真について>

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っていますが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていません。また、変化の様子をとらえるために、あえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図としました。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに、撮影条件や画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えています。



## 変わりゆく麻布 この10年 六本木三丁目(1)

港区麻布地区総合支所による「麻布未来写真館」の事業は、平成21年度(2009年度)に始まり、今年10年目を迎えた。

麻布地区の古い写真を収集する一方、現在の麻布を未来に残すため、定点写真等を撮影してきた10年間の活動の成果は、パネル展、活動報告、区のホームページなどを通して公開されている。

この10年のあいだに、麻布にはさまざまな変化が見られた。古いものがいつの間にか姿を消し、新しいものが次々に出現する — めまぐるしく変貌をつづけるのが今日の麻布である。さまざまな場所で再開発が行われ、新しいまちが誕生した。そのひとつがここに紹介する六本木三丁目である。

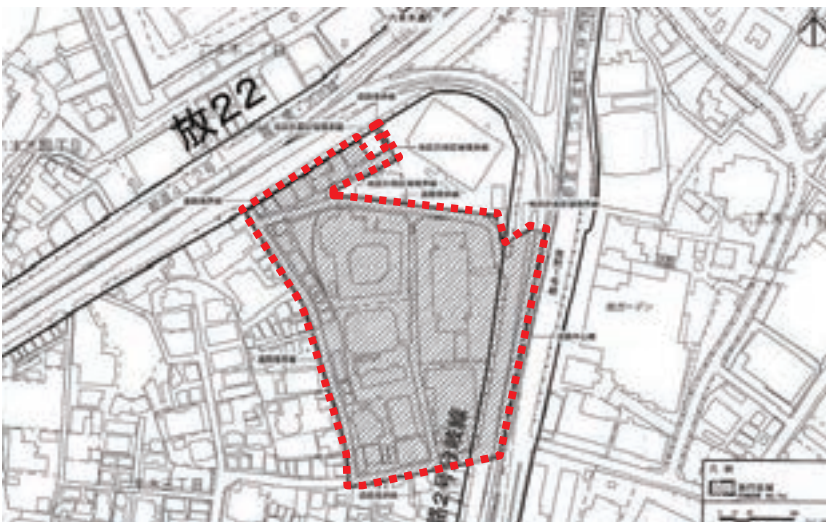


平成15年(2003年)6月:  
六本木ヒルズから見た六本木三丁目(着工前)



平成30年(2018年)6月:  
六本木ヒルズから見た六本木三丁目(完成後)

### 「六本木三丁目東地区第一種市街地再開発事業」施工区域図



資料:「港区ホームページ/六本木三丁目東地区第一種市街地再開発事業」  
<http://www.city.minato.tokyo.jp/>

地下鉄駅に隣接する六本木三丁目東地区は、市街地再開発事業として、平成23年(2011年)に都市計画決定、平成25年(2013年)に建築工事が着工された。

左上の写真に見るように、この地区には、かつて日本IBM本社、ヴィラフォンテーヌ六本木アネックス(旧六本木プリンスホテル)、ハローワーク品川などの建物があった。それらを解体した跡地(約2.7ヘクタール)に、地上43階の事務棟、地上27階の住宅棟、広場などがつくられ、平成28年(2016年)にオープンした。あわせて、なだれ坂などの周囲の道路も拡幅・整備された。

## 変わりゆく麻布 この10年 六本木三丁目(2)



分科会メンバー作成パネルの紹介



① 平成 23 年 (2011 年) 7 月: 着工前



② 平成 23 年 (2011 年) 7 月: 着工前



③ 平成 23 年 (2011 年) 7 月: 着工前



④ 平成 23 年 (2011 年) 7 月: 着工前



⑤ 平成 23 年 (2011 年) 7 月: 着工前



⑥ 平成 25 年 (2013 年) 11 月: 工事中



⑦ 平成 25 年 (2013 年) 12 月: 工事中



⑧ 平成 28 年 (2016 年) 4 月: 工事中

## 六本木七丁目 - 東京ミッドタウン西交差点周辺の変遷①



平成 30 年 (2018 年) : 東京ミッドタウン西交差点  
東京ミッドタウン、乃木坂方面の遊歩道から六本木七丁目角地を望む。

平成 19 年 (2007 年) 3 月、防衛庁(現防衛省) 跡地に東京ミッドタウンがオープンすると、外苑東通りを挟んで向かい、六本木七丁目側の交差点角地一帯に建ち並んでいたいくつものビルやマンションが取り壊され、開発が進められた。

現在、その場所には近代的な複合ビルが建ち、同ビルの南に位置する天祖神社の参道から本殿を望む風景も一変した。

国立新美術館へと続く道は拡幅され、交差点の信号機には「東京ミッドタウン西」という表示板が付されている。

本パネルでは、同交差点の南側に位置する六本木七丁目の一角を中心に、界隈の変遷をふり返ってみたい。



平成 10 年 (1998 年) 頃: 六本木七丁目側の交差点角地  
東京ミッドタウンがオープンする以前の風景。

当時、交差点の角地に建っていたレンガ色のマンション(左の写真)は1階が店舗で、上部に緑色のテントが付されたスペースには、一時期、東南アジア諸国のものと思われる輸入雑貨や衣類などを扱う店が出店していた。六本木と乃木坂を行き来する際、ときおり立ち寄った思い出がある。

向かい側、現在 東京ミッドタウンが建つ場所には防衛庁の広大な敷地を囲む塀が続き、その中ほどに正門があった。



平成 21 年 (2009 年) : 六本木七丁目側の交差点角地一帯に建ち並んでいたビルやマンションが取り壊され、六本木ヒルズ(中央)が見えている。





## 六本木七丁目 - 東京ミッドタウン西交差点周辺の変遷②



平成 23 年 (2011 年) : 六本木七丁目側の交差点角地  
現在、複合ビルが建つ場所には 2 階建の外国車のショールームが暫定的に設けられていた。



平成 29 年 (2017 年) : 交差点から国立新美術館へと向かう道路  
拡幅され歩道も広い。正面に見えているのは政策研究大学院大学の建物。



平成 29 年 (2017 年) : 東京ミッドタウンを六本木七丁目側、乃木坂寄りの歩道から望む。

防衛庁 (現防衛省) が所在した当時、敷地に隣接する乃木坂方面の角地に老舗のソウルバーがあった。日が暮れると、店名をかたどったネオンが細長い店の入口の上で光を放っていた光景が思い出される。



平成 30 年 (2018 年) :  
複合ビルの南に位置する天祖神社  
の参道から見た風景



平成 23 年 (2011 年) :  
天祖神社の参道から見た風景  
の参道から見た風景



昭和 12 年当時の地図によると、現在、東京ミッドタウンが建つ場所には歩兵第一聯隊が所在、現外苑東通りには市電が走り、東京ミッドタウン西交差点にあたる場所に「聯隊前 (れんたいまえ)」という名称の停留所が設けられていたことがわかる。



現在の六本木七丁目 7 ~ 8 番地にあたる三角形の土地は、文久 2 年当時の地図によれば「麻布竜土町」と称し、「凡例」から、神明宮 (現天祖神社)、長徳寺のほかは町屋が所在していたことがわかる。

資料 : 『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』 (左下地図) 上野録夫 「麻布区詳細図」 から編成 [昭和 12 年 (1937 年)]  
(右下地図) 「御府内場末往還其外沿革図書」 から編成 [文久 2 年 (1862 年)]

## 変わりゆく麻布 この10年 六本木六丁目の複合施設

六本木ヒルズ東側のこの地域には、かつて熊本会館、区営住宅などいくつかの建物があった。それらを解体した跡地に港区によって複合施設が生まれ、平成 29 年（2017 年）8 月に駐車場、10 月には区営住宅等がオープンした。この新たな施設には区営住宅、サービス付き高齢者向け住宅、障害者グループホーム、機械式自転車駐車場、区民協働スペース、災害対策職員住宅、防災備蓄倉庫が設けられている。



分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 25 年（2013 年）11 月：  
旧熊本会館 玄関



平成 25 年（2013 年）11 月：  
旧熊本会館 入口



平成 30 年（2018 年）8 月：  
完成した施設



平成 25 年（2013 年）11 月：  
旧区営住宅



平成 25 年（2013 年）11 月：  
西から見た旧区営住宅



平成 25 年（2013 年）11 月：  
着工前



平成 27 年（2015 年）7 月：  
工事中



平成 30 年（2018 年）8 月：  
完成後

## 変わりゆく麻布 この10年 六本木西公園



【写真左右とも】  
平成 23 年（2011 年）：公園入口の門があった南側の通りは、江戸時代の切絵図にも描かれている古い道。



【写真左右とも】  
平成 23 年（2011 年）：全面改修以前は、緑濃い公園だった。



【写真左右とも】  
平成 30 年（2018 年）：現在の公園には、消防団格納庫・防災資器材収納庫も建つ。

六本木西公園は、郵政省の官舎跡地を、港区が昭和 54 年（1979 年）に購入して新設された。南側の入口は、上の写真に見るように武家屋敷のような門構えだった。

平成 28 年（2016 年）に全面改修されて、最下段の写真に見るような姿に変わり、災害に対応した機能（マンホールトイレ、かまどベンチ、地下雨水貯留槽など）が整備された。

## 変わりゆく麻布 この10年 麻布警察署



分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 31 年 (2019 年) : 新しい麻布警察署 入り口、夕暮れ時



平成 31 年 (2019 年) :  
旧麻布警察署全景

実際にはこの位置からでは高速道路に遮られて旧麻布警察署は入り口付近しか見えない。

この写真では、複数枚の画像から、建物全体が見えるように再現した。



平成 21 (2009 年) :  
旧三河台中学校跡



平成 25 年 (2013 年) :  
用地整備中の旧三河台中学校跡



平成 30 年 (2018 年) :  
建築中の麻布警察署



平成 31 年 (2019 年) :  
完成して移転した麻布警察署



平成 26 年 (2014 年) :  
発掘現場見学会 発掘調査の様子



長年、六本木通りにあった警視庁麻布警察署は、庁舎の老朽化により、六本木四丁目の旧港区立三河台中学校跡地に移転する計画が進められていた。

用地の整備を行っていたところ、過去にあった旧陸軍、旧海軍の建物、さらにさかのぼって江戸時代の旗本花房家屋敷の遺構が発見された。旗本花房家屋敷跡遺跡の発掘調査は、平成 25 年 (2013 年) から開始され、平成 26 年 (2014 年) 5 月 24 日には、発掘現場見学会が行われた。発掘調査終了後、庁舎の建設は着工され、平成 30 年 (2018 年) 末に完成した。新庁舎での業務は、平成 31 年 (2019 年) 2 月 10 日から開始された。

## 変わりゆく麻布 この10年 時代の流れ

港区麻布地区総合支所による「麻布未来写真館」の事業は、平成 21 年（2009 年）に始まり、それから 10 年が経った。この間も、麻布のまちは絶えず変貌をつづけてきた。見なれたビルがいつの間にか消えてしまい、真新しいビルに変わっている。このようなことは日常茶飯事である。変わりゆくのは建物ばかりではない。

### 港区自転車シェアリング



同一規格の自転車を、地域内にあるどのサイクルポート（自転車置場）からでも貸出・返却できる有料のサービス。平成 26 年（2014 年）10 月に実証実験が始められた。放置自転車対策、環境負荷の低減、人々の利便性の向上などが期待され、今日では、利用できるエリアは区外まで拡大している。

平成 30 年（2018 年）12 月現在、麻布地区には、麻布地区総合支所など 15 のサイクルポートがあり、多くの人に利用されている。シェアリングは、ルームシェアリング、オフィスシェアリング、カーシェアリングなど、さまざまな分野で見られる近年の流れだ。

### みなとタバコルール

港区は、平成 15 年（2003 年）にこのルールの試行を始め、平成 26 年（2014 年）には条例で「みなとタバコルール」を規定した。これにより、吸い殻のポイ捨てや受動喫煙などが減ることが期待されている。

近年は「みなとタバコルール」の文字が入ったジャンパーを着た指導員がまちを巡回し、道に落ちていた吸い殻を拾う姿も見られる。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、分煙はさらに進むだろう。

なお、港区の特別区たばこ税収入は約 59 億円（平成 29 年度）にのぼり、23 区のなかでは 2 番目に多い。



このページに掲載されている写真について／写真撮影：平成 30～31 年（2018～2019 年）



## 変わりゆく麻布 この10年 筈(こうがい)公園



分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和 59 年 (1984 年) :  
当時の園内の様子、小山がある



昭和 59 年 (1984 年) :  
当時の園内の様子



昭和 63 年 (1988 年) : 筈公園と南側に  
隣接する NTT の社宅



平成 22 年 (2010 年) : 隣接する集合住  
宅から見た筈公園の緑



平成 24 年 (2012 年) : 桜満開の筈公園、  
筈小学校側から撮影



平成 24 年 (2012 年) : 園内の風景、右  
手前は旧遊具



平成 21 年 (2009 年) : 遊具が再リニュー  
アルされる前の風景



平成 25 年 (2013 年) : 手前は再リニュー  
アルで設置された遊具



平成 24 年 (2012 年) : 遊具の再リニュー  
アル工事風景



平成 25 年 (2013 年) : 再リニューアル  
で設置された遊具



平成 25 年 (2013 年) : 新しくなった遊  
具と六本木ヒルズ

筈公園は外苑西通りと筈小学校との間の敷地に設けられた区立公園で、昭和 45 年 (1970 年) に開園。公園ができる前の 1960 年代には、その一角に古くて小さな木造住宅が何軒も建っていた。住宅が建つ一帯の真ん中あたりに柿の木が一本あり、秋になると、実がたわわになったことを憶えている。公園の北側、道を挟んだ角には「こうがい堂」という学用品を扱う店があり、教科書や文房具、工作用品、プラモデルなどを売っていた。

筈公園は子育て中によく利用した懐かしい場所でもある。平成 11 年 (1999 年) 頃、園内が遊具を含めリニューアルされた。フィールドアスレチックを彷彿とさせる吊り橋やターザンロープ、滑り台が組み合わされた大きな遊具があって、週末になるとさまざまな国の親子連れでにぎわい、子ども同士仲良く遊んでいた姿が思い出される。その後、行われた園内の再リニューアル工事により、現在は砂場が犬猫よけのフェンスで囲われ、遊具も低学年向けの、より安全なひと回り小型のものに変わっている。

晴れた日には、昼間、近くの幼稚園に通う親子連れがピクニックをする姿を見かけたり、いつも同じような時間に遊びに来る外国人の子供たちがいたり。テレビ番組の撮影が入ることもあれば、夜、犬を連れた方々が散歩に来るなど、さまざまな使われ方をしている。桜の季節には、昼間から場所取りをして夜、楽しげに宴を催される方々にも出会う。まさに在住、在勤、在学者の憩いの場所となっている。

## 変わりゆく麻布 この10年 広尾橋交差点付近

外苑西通り沿い、東京メトロ日比谷線広尾駅の1番・2番出口がある交差点は、広尾橋交差点と呼ばれている。これは、今は暗渠（あんきょ）になっている筈川にかかる広尾橋があったことにちなむ名称である。

広尾橋交差点から有栖川宮記念公園へと向かう道にはベーカリーや飲食店などが並び、カフェのテラス席でくつろぐ人々には外国人の姿も少なくない。

かつて、この通り沿いには腕の良いタイヤ店があった。車のホイールを曲げてしまったときなど、すぐに元に戻していただいた、ありがたい思い出がある。



平成 22 年 (2010 年) : 広尾橋交差点から有栖川宮記念公園に向かう道沿いにあったタイヤ店



平成 24 年 (2012 年) : 左の写真に近い位置から撮影  
タイヤ店はなくなり、新しいビルに変わっている。



平成 30 年 (2018 年) : 左・中央の写真と同じ場所を広尾橋交差点寄りから撮影



平成 22 年 (2010 年) : 有栖川宮記念公園寄りから撮影



平成 24 年 (2012 年) : 左の写真に近い位置から撮影



平成 31 年 (2019 年) : 左・中央の写真と同じ角



平成 21 年 (2009 年) : 銀行のある側から見た広尾橋交差点  
右上方の青いビルの1階部分に広尾駅の地上改札(2番出口)がある。おなじみ、セダンタイプのタクシーの姿も。

広尾駅の出口やショッピングモール、銀行などがある交差点は麻布ではめずらしく、ここ10年、景観にはあまり変化のない場所である。しかしよく見ると、走っている車が変わっている。以前はセダンタイプの色鮮やかなタクシーや、黒塗りのハイブリッド車などを見かけたものだが、最近ではコミュニティバス「ちいばす」に加え、ミニバンタイプの黒塗りや濃い藍色の「JPN TAXI」(ジャパntaxi)を多く見かけるようになった。

広尾駅のバリアフリー化に伴い、六本木寄り改札側に、外苑西通りの両側を地下で結ぶ連絡通路が整備され、一方の出口にエレベーターが設置されると、通りにかかっていた歩道橋も姿を消した。麻布未来写真館のまち歩きで通りを撮影する際、よく利用した歩道橋だった。

広尾駅のバリアフリー化に伴い、六本木寄り改札側に、外苑西通りの両側を地下で結ぶ連絡通路が整備され、一方の出口にエレベーターが設置されると、通りにかかっていた歩道橋も姿を消した。麻布未来写真館のまち歩きで通りを撮影する際、よく利用した歩道橋だった。



平成 31 年 (2019 年) : 左上の写真に近い位置から撮影した広尾橋交差点  
景観に大きな変化は見られないが、ミニバンタイプのタクシーの姿に時の流れを感じる。

## 変わりゆく麻布 この10年 有栖川公園前交差点



分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 23 年 (2011 年) : 南部坂 坂下から

改装前のナショナル麻布スーパーマーケット (以下、スーパーマーケット)、後ろの茶色いビルはドイツ連邦共和国大使館の事務棟。



昭和 50 年 (1975 年) :  
南部坂 坂下から



平成 24 年 (2012 年) :  
改装中のスーパーマーケット



平成 30 年 (2018 年) : 南部坂 坂下から

この付近は江戸時代「廣尾町」と呼ばれていた。現在は南麻布四・五丁目。



平成 24 年 (2012 年) :  
新装オープンしたスーパーマーケット



平成 30 年 (2018 年) : 南部坂 坂上から

現在の有栖川宮記念公園は江戸時代は盛岡・南部藩の下屋敷であった。一方、反対側、ドイツ連邦共和国大使館、南部坂教会付近も、松平家、酒井家等の屋敷であった。南部坂は東京メトロ広尾駅から仙台坂上へ行く最短ルートである。

池波正太郎の『鬼平犯科帳』に「麻布一本松」という短編がある。その中で、同心の忠吾は麻布十番から大黒坂を上り麻布一本松に着くが、そこで浪人と喧嘩になりそうになり、かなわないと思い、そのまま走って本村町から南部坂を下り、広尾まで逃げてしまう。

つまり元麻布ヒルズや麻布氷川神社前を通り過ぎ、仙台坂上から天真寺そして南部坂を下りてナショナル麻布スーパーマーケットを越して広尾までのコースという麻布のまち歩きのコースである。

このページに掲載されている古い写真について / 写真撮影 : 田口政典氏、写真提供 : 田口重久氏

※「有栖川公園前交差点」の表記は、有栖川宮記念公園の前にある交差点名標識による。



## 変わりゆく麻布 この10年 フランス大使館



分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 21 年 (2009 年) : イベント開催中の旧フランス大使館庁舎  
外壁にも作品が描かれた



平成 21 年 (2009 年) :  
作品が描かれる前の外壁部分



平成 21 年 (2009 年) : 青木坂下より  
手前には旧南麻布富士見町会館



平成 21 年 (2009 年) :  
旧フランス大使館ゲート前



平成 21 年 (2009 年) : イベント開催中  
の風景 「ノーマンズランドの門」



平成 30 年 (2018 年) : 青木坂下より  
右手前は南麻布富士見町会館



平成 31 年 (2019 年) :  
新しいフランス大使館ゲート前



平成 21 年 (2009 年) : イベント開催中  
の風景、大使館旧庁舎へのアプローチ

平成 21 年 (2009 年)、南麻布にあるフランス大使館の新庁舎が竣工した。昭和 32 年 (1957 年) にジョゼフ・ベルモンによって設計された旧庁舎は、新庁舎に大使館機能が移されたことを機に解体されることとなった。その解体を前に、旧庁舎で日仏のアーティスト 70 組 200 人近くが参加するアートイベント「NO MAN'S LAND」が開催された。

このアートイベントでは、屋内外を問わずあらゆる空間(事務室、廊下、資料室、階段、地下室、庭園など)が作品で満たされ、連日多くの人々が訪れ、好評を博した。そのため、会期は当初、平成 21 年 (2009 年) 11 月 26 日から平成 22 年 (2010 年) 1 月末であったが、2 月 18 日まで延長された。

もともとこの地は、徳川家第 19 代当主である侯爵・徳川義親邸の跡地であり、広大な敷地には今なお自然が残されている。解体された旧庁舎跡地は、現在マンションが建っている。

フランス大使館北西側にある青木坂は、北東方向に坂を上るとフランス大使公邸がある。その坂の名は、江戸時代中期以後、北側に旗本青木氏の屋敷があったために呼ばれたという。

## 変わりゆく麻布 この10年 東京アメリカンクラブ



分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 17 年 (2005 年) :  
建て替え前のアメリカンクラブ (日本経緯度原点から)



昭和 46 年 (1971 年) :  
人々にぎわうアメリカンクラブ



平成 21 年 (2009 年) :  
建て替え中のアメリカンクラブ



平成 23 年 (2011 年) :  
建て替えにより、敷地内に新たに建てられたマンション (日本経緯度原点から)



平成 25 年 (2013 年) :  
建て替え後のアメリカンクラブ入り口

東京アメリカンクラブ (TAC) は、1928 年に設立された会員制社交クラブ。平成 23 年 (2011 年)、建て替えによって最先端ビルに生まれ変わった。

アメリカンクラブには、多彩な文化プログラムが用意されており、日本の文化の紹介や世界から訪れる人々の交流の場として図書館、宴会場、複数のレストラン、プール、ジム他運動施設がある。敷地内にはフランク・ロイド・ライトのモニュメントが置かれ、歴史を感じさせる石灯籠も見られる。

地域とも有意義な交流が行われている。現在、様々な国籍の 3,300 人前後が会員である。



平成 22 年 (2010 年) :  
建て替え中のアメリカンクラブ入り口付近



平成 31 年 (2019 年) :  
アメリカンクラブ入り口付近

参考資料：『あざぶ達人倶楽部 歴史散策マップ』（平成 25 年 3 月）

## はじめりは麻布から 日本国憲法発祥の地



分科会メンバー作成パネルの紹介



平成 31 年 (2019 年) : 「日本国憲法草案審議の地」の碑があるビル付近  
(この交差点を真っ直ぐ下ると我善坊谷)



『ザ・AZABU 第 5 号』:  
日本国憲法草案についての記事



平成 31 年 (2019 年) : ビルの敷地内  
正面奥に碑がある。



平成 31 年 (2019 年) :  
「日本国憲法草案審議の地」の碑



平成 23 年 (2011 年) :  
泉ガーデンの裏から  
正面に碑があるビルを見ることができる。



平成 31 年 (2019 年) :  
上の写真に近い位置から撮影  
左手には新たにタワーマンションが建設  
されている。

日本国憲法発祥の地が、麻布にあることはあまり知られていない。  
ホテルオークラ東京から、スペイン大使館、泉屋博古館分館へと進み、  
我善坊谷へと下る交差点を右に曲がったビル（アーク八木ビル）敷地  
内に「日本国憲法草案審議の地」の碑がある。

日本国憲法草案審議についての詳しい経緯は、麻布地区の地域情報紙  
『ザ・AZABU 第 5 号』の「麻布の軌跡：62 年前の極秘会合」をご覧ください。

麻布地区の地域情報紙『ザ・AZABU 第 5 号』

<http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikusei/azabu/koho/documents/azabuvol5.pdf>



## 明治通り 絶江坂(ぜっこうざか)付近



分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和初期(1920年代)：明治通り、絶江坂付近  
右手前は西福寺(さいふくじ)、左奥には映画館を見ることができる。



昭和50年(1975年)：絶江坂 坂下から



平成30年(2018年)：明治通り、上の写真と近い位置から撮影  
変わらぬ様子の西福寺を見ることができる。



平成27年(2015年)：絶江坂

昭和初期、この辺りの古川沿いには多くの町工場が連なっており、賑わっていた。

明治通りには市電(後の都電)の線路が見え、写真左手に映画館(弥生座→麻布南座→麻布松竹館)がある。映画館の前に立つ「のぼり旗」には、「松竹キネマ株式会社」、「カフェの女王(松竹蒲田、1927年公開、監督：大久保忠素)」の文字が読み取れる。映画館の裏手には、有名な落語「黄金餅」にも出てくる絶江坂がある。

昭和初期(1920年代)の写真では、西福寺の前に多くの人が並んでいる。この頃の様子をご存知の方はご一報いただきたい。



資料(右下地図)：『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』「東京市麻布区地籍図」から編成 [昭和8年(1933年)]

このページに掲載されている古い写真について / (左上) 写真提供：久松博氏

(右上) 写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

### メンバーのことば

#### 副座長 小山 浩

麻布未来写真館はお世話様で平成 30 年度に 10 年目を迎えました。そこでこの 10 年間でふり返るパネルを作成しました。坂道や公園の風景は変わりはありませんが、周辺のお店や建物が変わっていきます。

麻布未来写真館の 10 年は「平成最後の 10 年」ということになりました。平成 31 年度は新元号の「元年」の麻布を撮影して未来に向けて保存するという活動になります。

写真は六本木けやき坂上付近（平成 31 年 3 月）ですが、再開発が始まる模様です。



#### メンバー 天羽 大器

街は日々、変化している。建物がこわされ、新しいマンションやオフィスビルがつくれている。

麻布でもそういう傾向がみられる。六本木三丁目一帯の再開発ができたと思ったら、麻布台一帯の再開発が開始した。数年後には谷ごと埋められたビルができあがるだろう。

麻布未来写真館は今年で 10 年がたった。その大きなテーマに再開発される前、工事中、再開発された後と 3 段階の写真を数多く撮ってパネル化した。また、10 年前と比較しても大きく変化している。今年度その今昔をパネル化した。今後ともこういう視点で再開発される場所の写真を撮りたいと思う。そういう場所はまったなしであつというまに再開発されてしまう。

#### メンバー 荒澤 経子

麻布未来写真館の皆様方との「まち歩き撮影」をいつも楽しく過ごさせて頂いて居ります。

年齢を重ねてきて、町々の新しい変化を見るたびに過ぎし古き記憶が走馬灯のように蘇るようになりました。



#### メンバー 入江 誠

青木坂の紅葉は、一年間の記憶としてよみがえります。

フランス大使を取り巻く「もみじ葉楓」。

11 月末から 12 月初め頃、坂下から照る夕日刻には赤い葉っぱが、さらに赤味を増して見られた景観は感動的でした。

毎年、この頃に足を運んでみようと思っている。

## メンバー 岡崎 純子

ここ数年、再開発が予定されている我善坊（麻布台一丁目）の地域を、重点をおいて撮影してまいりました。2019 年に入り、建物の取り壊し工事が始まりました。夕日に染まっている工事現場を見つめていますと、郷愁を感じてきました。沢山の人のさまざまな思い出の詰まった我善坊。変化していくこの地をしっかりと、記録していかなければならないと、痛感いたしました。

この一年も多くの方々に支えられて活動することができましたことを感謝申し上げます。これからも「麻布未来写真館」を、どうぞよろしくお願いいたします。



「夕方の我善坊」(2019.01.11 撮影)

## メンバー 櫻井 綾

今年は、諸事情により麻布未来写真館の活動に集中する時間を取るのが難しい一年でした。かろうじて まち歩きには 2 回とも参加しましたが、同行した娘の体力的に全行程を皆様と最後まで歩くことが叶わず。そんな時も温かく見守って下さったメンバー・関係者の方々に感謝するばかりです。

そんな まち歩きの中、娘が撮ったガラス窓に写った私達を今年一枚としたいと思います。これは、六本木駅 7 番出口から国立新美術館までに行く際の近道「竜土町美術館通り」という名前の小道にあるお店のウィンドウです。曇りガラスに花が描かれた素敵なお店でした。母親とお出かけするのが嫌になるお年頃はいつ訪れるのか…と、思いを馳せる一枚となりました。



「竜土町美術館通りにて娘が撮った一枚」(2018.10.28 月撮影)

## メンバー 鈴木 順二

港区立郷土歴史館が昨年 11 月白金台に開館しました。80 年前にできた旧公衆衛生院の建物を改修したこの施設では、港区の自然、歴史、文化をテーマとして展示やイベントなどが行われています。

こうした古い建築には、建てられた時代の空気がつまっているように感じます。作った人や社会の精神を呼びおこす何かがあります。港区では赤坂・迎賓館、三田・三井倶楽部、白金・庭園美術館などもそうですね。

麻布には麻布郵便局の立派な建物があります。こちらは約 90 年前に旧逓信省貯金局の庁舎として建てられたそうです。正面入口の階段は実に 10 段も登らなくてはならず、当時のお役所のありようを実感できます。加えて、玄関にはアール・デコ様式の意匠も見られ、まさに時代の雰囲気を感じる建造物です。麻布の地域情報紙『ザ・AZABU』(2010 年 12 月)に紹介されているとおり、大規模な改修や耐震工事が行われ、「麻布の宝ともいえる貴重な」建物となりました。しかし、再開発にともない解体が決まり、工事が始まりました。「麻布の宝」は詳しい記録が残されて、みなと図書館、郷土歴史館など、しかるべき施設で公開されることになるのでしょうか。

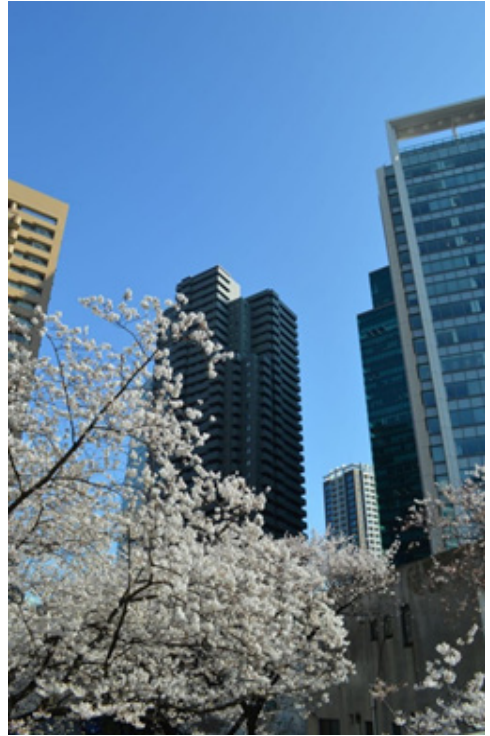


## メンバー 椿由美子

今年度は、「六本木七丁目―東京ミッドタウン西交差点周辺の変遷」というパネルを中心に制作に携わらせていただきました。外苑東通りを朝に夕にと行き来していた1990年代をふり返ると、通り沿いにあった店や建物もずいぶん変わりました。東京ミッドタウン西交差点から国立新美術館へと向かう道は、いまより道幅が狭く、突き当たりには東京大学六本木キャンパスの歴史を感じさせる正門と研究所の建物があった風景が思い出されます。六本木交差点の七丁目側角地には誠志堂書店があり、店頭で週刊誌や雑誌などがずらりと並んでいた風景も記憶の中のなつかしい一コマです。

大規模な複合施設や飲食店、オフィスビルなどがひしめくエリアを離れると、静かな住宅地、神社や寺院、こじんまりとした公園など、変わらずそこにある風景と出会うことができるのもまた麻布です。9月に開催された地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」に参加させていただき、50年、60年と麻布で暮らしてこられた方々から昔の思い出をあれこれ聞かせていただけたことも貴重な経験となりました。

年度末のこの時期は例年、桜の開花を心待ちにするときでもあります。写真は2018年3月に撮影したスペイン坂の桜です。



Ⅲ  
これまでの活動を振り返って

## メンバー 増子照孔

我善坊の工事が始まり、一軒家が多かったが今は白い壁で囲われ一軒家がなくなりそうです。私が好きだったツタに囲まれた家までなくなるのです。季節感があり、田舎の家を思い出すので、好きで写真を撮っていましたが、あの家までなくなるのは驚きです。今まで我善坊の上に住んでいて良かったと思います。ビルばかりの港区は良くありません、何とか一軒家を残すことを考えなければと思います。畳屋さんもビルに引っ越してきました。畳屋さんもなくなりました。跡を継ぐ人がいないので仕方がないと思いますが、後継者を育てないのが一番いけないと思います。



## メンバー 水野禮子

麻布地区はお気に入りの場所・風景など、また歴史伝統が息づくまちです。昔の歴史を調べて現在と対比するとあまりにも変化があり、いろいろと勉強になりました。また、最近では新しく建設された麻布警察署を見学することができ、いろいろな面でためになりました。

今・昔の麻布をもっとわかりたいと思う今日この頃です。

## 座長 近藤 敏康

麻布の今を記録しつつ、麻布にまつわる古い写真を集め、パネル展やネットを通じて記録・公開する「麻布未来写真館」の活動も、平成 21 年度の創立から本年度で 10 年目を迎えることができました。

今年度は、麻布未来写真館の初期に撮影した写真と大きく変化した今を比較、ご提供いただいた古い写真をもとに、まちの移り変わりを対比、さらにメンバー想い想いのテーマに沿ったパネルを制作いたしました。10 年の間に蓄積したパネルを利用して、区内各所でのパネル展を開催し、都立中央図書館や麻布地区総合支所、有栖川宮記念公園公園事務所などでの常設展示や貸し出しも行いました。

また、今年度からの新たな取組として、東京大学大学院情報理工学系科学研究科・谷川智洋特任准教授との協力による、タブレットで麻布の歴史を覗く AR 体験展示など、先端的なデジタル化の取組等を進めることができました。

これからも「麻布未来写真館」事業へのご支援、ご指導、ご協力、古い写真や、古い麻布の音の録音テープのご提供など、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新規メンバーも募集しておりますので、お気軽に活動を見学においでいただけると幸いです。



## 講師 達川 清

「麻布未来写真館」の活動もはや 10 年。メンバーの熱意は変わらずそれ以上に増している。

何度も何度も路地裏まで麻布の変化を見つめています。視点観点も深くなって素晴らしい。

櫻井さんのお子さんは、「麻布未来写真館」の活動と同じく、初年度に生まれ、メンバーと一緒に「まち歩き撮影」に参加して大きくなって来ました。嬉しいですね。

私の好きな場所は「宮村児童遊園」です。大きなビルの谷間にある小さな家の暖かい空間に惹かれます。



Ⅲ  
これまでの活動を振り返って



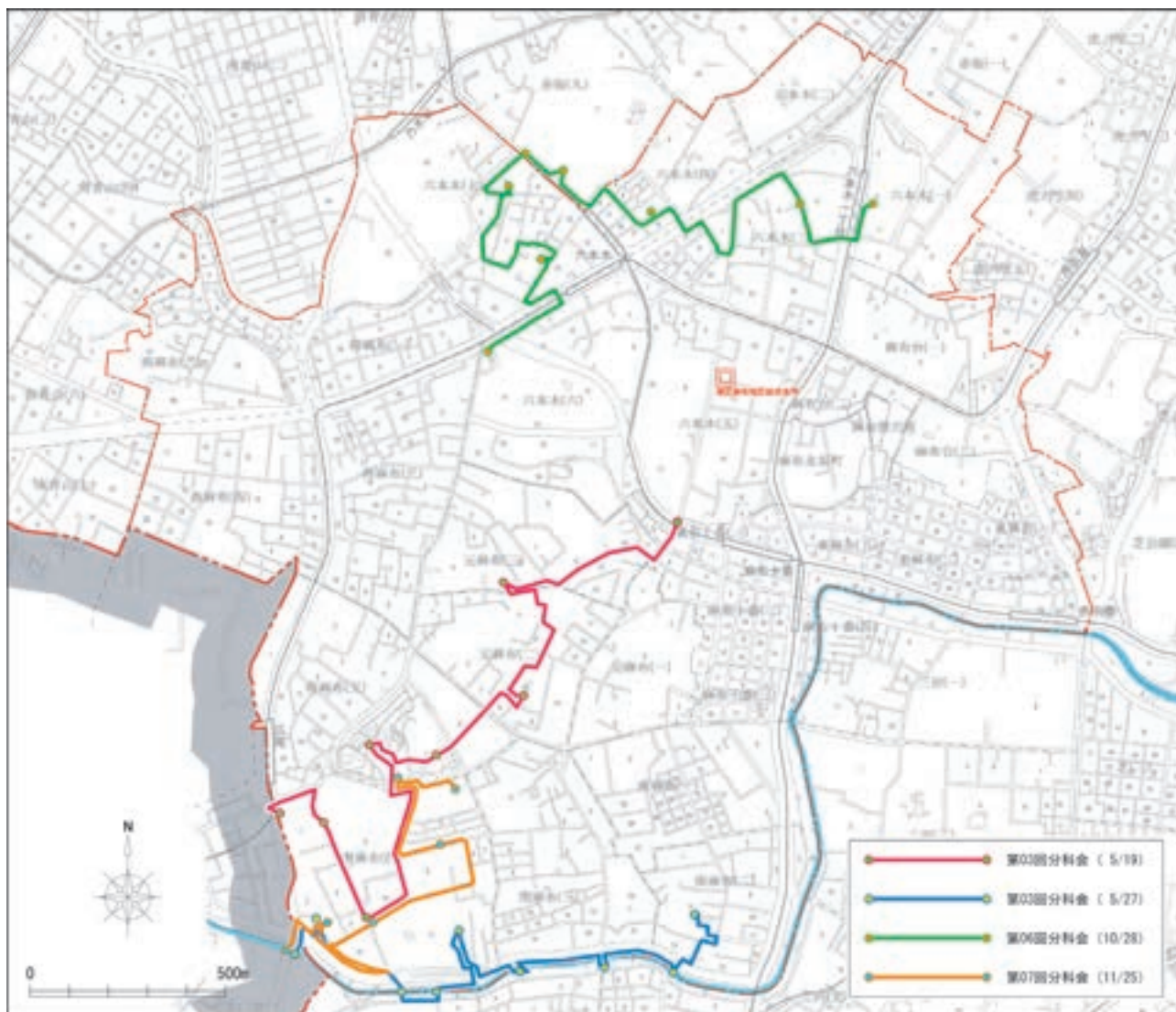
## 分科会活動記録（平成 30 年度）

- 平成 30 年
- 4 月 18 日（水） 第 1 回分科会：今年度の活動等
  - 5 月 09 日（水） 第 2 回分科会：パネル展、まち歩きの検討等
  - 5 月 19 日（土） 第 3 回分科会：まち歩き（撮影） A 日程
  - 5 月 21 日（月） パネル展①：区役所ロビー（～ 6/1）
  - 5 月 27 日（日） 第 3 回分科会：まち歩き（撮影） B 日程
  - 6 月 13 日（水） 第 4 回分科会：パネル作成について、まち歩きレビュー等
  - 6 月 18 日（月） パネル展②：麻布地区総合支所ロビー（～ 7/13）
  - 8 月 29 日（水） 第 5 回分科会：パネル展等イベント、今後の予定等
  - 9 月 10 日（月） パネル展③ありすの杜南麻布（～ 9/21）
  - 9 月 13 日（木） 「地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～」での連携講座
  - 9 月 26 日（水） 第 6 回分科会：パネル展等イベント、まち歩きの検討等
  - 10 月 16 日（火） パネル展④：麻布図書館（達人ラボとの連携）（～ 10/30）
  - 10 月 28 日（日） 第 7 回分科会：まち歩き（撮影） A 日程
  - 11 月 25 日（日） 第 7 回分科会：まち歩き（撮影） B 日程
  - 12 月 12 日（水） 第 8 回分科会：撮影レビュー、パネル展に向けた検討と作業
- 平成 31 年
- 1 月 16 日（水） 第 9 回分科会：年度末パネル展に向けた検討と作業
  - 2 月 15 日（金） パネル展⑤：フジフィルムスクエア ミニギャラリー（～ 2/28）
  - 2 月 18 日（月） パネル展⑥：麻布地区総合支所ロビー（～ 2/28）
  - 2 月 27 日（水） 第 10 回分科会：パネル展について、活動報告について等
  - 3 月 19 日（火） パネル展⑦：ありすいきいきプラザ（～ 3/29）
  - 3 月 19 日（火） パネル展⑧：東洋英和女学院（A2 パネルを仮設置）
  - 3 月 27 日（水） 第 11 回分科会：活動報告について等



## まち歩き（撮影）ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。



## 港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会  
平成30年度(2018年度) 活動報告

刊行物発行番号  
30296-1435

平成31年(2019年)3月発行  
発行 港区麻布地区総合支所 協働推進課  
〒106-8515 東京都港区六本木5丁目16番45号  
電話 03-5114-8812

《技術・会場協力等》：達川清氏(フォトグラファー)、東京大学 廣瀬・谷川・鳴海 研究室  
学校法人東洋英和女学院、フジフィルム スクエア(富士フィルム株式会社)、都立中央図書館、ありすいきいきプラザ、  
港区立麻布図書館、ニュートゥモローカフェ (ありすの杜 南麻布) (順不同)

©禁無断転載複製

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

## 麻布未来写真館

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

これまで作成したパネルや活動報告は、Webでもご覧になれます。

港区ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>

麻布未来写真館

検索 🔍



「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！

未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古い写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので、港区麻布地区総合支所までお寄せください。

詳細につきましては、協働推進課地区政策担当までお問合せください。

お問合せ

TEL : 03-5114-8812